踏　み　跡　＜My　Mountains＞

南アルプス前衛	身延山	No.306

平成１６年２月２０日
船橋発 6 時 53 分、特急あずさ 3 号。千葉方面から中央本線の旅に出るのには大変便利な一本である。
甲府着 9 時 08 分。駅前で予め予約してあるレンタカーを借りてすぐに出発。
トンネルを抜けて精進湖へ。朝の湖と富士の眺めが素晴らしい。
再び山を越えて身延山へ。

三門をくぐり、菩提梯と名付けられた長い石段を登り切ると本堂が目の前に広がる。287 段の急な石段はかなりの運動量になる。
本堂の裏手へ進みしばらく山道を歩くとロープウェイの駅がある。
山頂の思親閣までは勿論歩く道もあるが、ここは文明の力を借りて登ることにした。山頂からの眺めは、西に南アルプス・東に富士山とその周辺の山、随分贅沢な眺めを楽しめる。雪をいただいた南アルプスの山並みを味わい、大きく鮮やかな富士山の迫力を味わい、充分に眺望を楽しんだ。（右写真：山頂からの富士）
真冬ながら好天で、温かめで、雪もなく歩きやすい身延山を楽しんだ後は下部温泉へ、湯元ホテルに一泊。
実は今回の旅の主たる目的は、この宿に泊ることにあった。
40 年前、高校の同級仲間と中部地方を野宿して旅した時のこと。この下部の河原で野宿の支度をしていたら、見知らぬ夫人に声をかけられた。

「そんなところで野宿しないで、泊るところを貸してあげるから家へ来なさい」
その方は自宅の台所を解放してくれ、
「ここで食事を作って食べて、皆でここで寝袋で寝なさい。私たちは何も構わないから」
お言葉に甘えた我々は、この方の家の台所で食事を作って食べ、そこで一泊した。
翌朝、出発時に「帰ってから礼状を出したいので住所と名前を教えて欲しい」と申し出て、書いてもらい、一緒に記念撮影をして次の目的地に向かった。（上写真：40 年前の記念写真）
帰宅後に写真を同封して礼状を送ったところ、丁重な返信が返ってきた。返信の封筒には「下部温泉湯元ホテル」とゴム印が押してあり、ホテルのオーナーの奥様だったことを知った。
少年の貧乏旅行に手を差し伸べていただいたことが忘れられず、いつの日にかお礼に行ってみたいと思い続けてきた。
下部温泉はやや客足が遠のいた温泉になってしまったようだ。ホテルはすぐに見つかり、チェックイン。
カウンターに立った男は私より少し若いぐらいの顔立ちの人だった。鞄のポケットに忍ばせて行った写真を見せて経緯を話すと・・・・。（上記の写真）
この人は我々が 40 年前にお世話になった奥さんの息子さんで、両親が亡くなった後で脱サラしてホテルの経営に入ったとのことだった。40 年前の謝礼のひとことを申し上げて部屋に入ったら、何だか背負っていた重荷を下したような爽快な気分になってきた。
冷泉と温泉があるこの温泉は、昔から数多くのスポーツマンが怪我の後のリハビリに使った。
二つの浴槽を交互に入浴することで血行が促進するようで、布団に入った後の体の温もりが良かった。

平成１６年２月２１日
朝食後宿を辞して、湯の奥をドライブの後、下部を後にして故郷探訪の旅に入った。
下部から再びトンネルを潜って富士山側へ移動し、白糸の滝、吉原の町などをぶらぶらした後、新富士駅でレンタカーを返却。タクシーで富士駅へ行き、東海道線各駅停車の旅を楽しみながら大船へ。
大船から総武快速に乗り換えて船橋経由で帰宅した。二日間とも天気が良く、二月だと言うのに温かで桜が咲きそうな陽気だった。　以上